主体的に関わり、学びを深めていく児童の育成

~児童の課題解決力を高める指導法の工夫を通して~

(3年計画の1年次)

校長名 木村 朋子

1 研究主題について

教育目標具現化の立場から

本校では、教育目標の「心豊かに学び たくましく生きる子どもの育成」及び努力目標の「進んで学ぶ子」を受け、「夢や志の実現に向け進んで努力する子」を目指す児童像として教育活動を行っていく。今年度から主題を「主体的に関わり、学びを深めていく児童の育成」とし、児童の課題解決力を高め自らの夢や志の実現に向かって行動していくための基礎を培うとともに、課題解決の基盤となる情報活用能力を養うための授業づくりについて研究を深め、教育目標の具現化を進めていく。また立腰姿勢で話をよく聞かせることや特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを共通の取組としながら、児童が本時のねらいに確実に到達できるように努めていきたい。

児童の実態から

本校児童は、学習面では自分の考えを自分の言葉で書いたり、話したりできる児童が増えてきている。特に、国語科の実践を通して対話活動を工夫し、「対話」と「思考」を関連させた授業を行うことによって自分の考えを表現する力が付いてきた。他教科でも、対話を生かした活動や表現力を学習に生かしてきた。今年度は、子どもたちに配付された1人1台端末やその他ICT機器を課題解決のために効果的に活用していく情報活用能力を育てていきたいと考えている。学習に必要な情報を取り出し、その情報をもとに今まで培ってきた「対話力」「思考力」を使い協働的に課題を解決していく児童の育成を目指していく。

これまでの実践から

これまで本校では、3年間国語をパイロット教科として、対話活動場面を授業内に位置付け、思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫について研究に取り組んできた。4年目には、国語で培ってきた力を他教科で生かす研究にも取り組んだ。今年度は、児童の課題解決能力を高める指導法を工夫する授業研究を行っていく。課題解決の基盤となる情報活用能力を養うためにICT機器を効果的に活用していく。課題解決に必要な情報を取り出し、精査する力を養うことで、児童の課題解決能力を高め、主体的に学びを深めていくことができると考える。さらに4年間で培ってきた「対話力」を生かし、集めた情報をもとに協働的に課題を解決していく児童の育成を目指していきたいと考えている。そのために、日常の授業で、国語をパイロット教科として校内研修における仮説を意識した指導を積み重ねていきたい。

2 研究のねらい

主体的に関わり、学びを深めていく児童を育成するために、学習に必要な情報を取り出し課題解決のための手立てとしたり、意見を集約し他者とともに問題の発見や解決に挑んだりできるような指導の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

3 研究仮説

児童が学習に必要な情報を探し出したり、精査したり、考えを共有してともに考えたりする場を設けることで、 課題解決力を高めることにつながり、主体的に関わり、学びを深めていくことができると考える。

4 研究内容

- (1) 情報活用能力を養うための指導の工夫 ア ICT 機器の効果的な指導の工夫をする
- (2) 特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫 ア 児童が考えたり理解したりする助けとなる視覚支援を工夫する

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	題材名・授業者	授業の概要
11	5	第1回授業研究(1学年) 「じどう車くらべ」 授業者 工藤 江莉 教諭 助言者 是川小学校校長 佐々木 宏恵 氏	はしご車の「つくり」を見つけるために、はしご車が活動している動画を見ながら、ジャムボード上のはしご車の画像に印を付ける活動を行った。自分のペースで動画を見たり、気になる箇所を繰り返し見たりすることができ、主体的に課題解決に向かうことができた。また、ジャムボードに印を付ける際、ペアで相談する活動を取り入れ、お互いの考えを生かしながら協働的に活動することができた。
12	7	第2回授業研究(4学年) 「冬の楽しみ」 授業者 十日市 江梨子 教諭 助言者 是川小学校校長 佐々木 宏恵 氏	かるたを作ることを目的として、冬の言葉や行事に ついての時期を確認したり、意味を調べたりした。ジャムボードを使い、言葉を時期ごとに仲間分けをしたり、調べた言葉の意味を付箋で付け足したりした。ジャムボードの共有しやすいメリットを生かし、個々の考えを全体で共有しながら考えを深めることができた。また、かるた作りの際に、ジャムボードを見ながら作ることができるよさがある。

(2) 一般研修

7 7007112				
月	日	研 修 の 内 容		
4	28	年間計画の見直し		
		GIGA スクール構想についての研修 講師:本校職員		
		学力テストの分析と対策		
6	2	1人1台端末活用研修 講師:本校職員		
		登校渋りについての研修 講師:本校職員		
6	2 3	特別支援教育研修(コグトレ) 講師:本校職員(ことば)		
7	9	若手研修講座 講師:教育指導課副参事兼主任指導主事 日向端 聖 氏		
7	1 2	小·中 JS 特別支援教育(スクリーニング研修会)講師:八戸学院短期大学教授 野口 和也 氏		
9	1	1人1台端末の活用研修 講師:本校職員		
10	20	若手研修講座 講師:教育指導課主任指導主事 福田 秀貴 氏		
1 1	1 7	1人1台端末の活用研修 講師:総合教育センター主任指導主事 石井 一二三 氏		

6 研究の成果

- (1) 1人1台端末を活用することにより、分類する、直す、消すなどが容易にでき、作業が遅い早いなどの個人 差への対応がしやすかった。主体的に課題解決へ向かうツールとして有効だった。
- (2) 動画視聴の際、1人1台端末使うことで、自分が気になるところを繰り返し見たり、止めたりすることができた。個々の学びに合わせて学習を進めることができるため、児童の意欲喚起へつながった。
- (3) 1人1台端末を使うと、個々の考えを全体に共有するのが容易なため、全体で話し合いながら学びを深めていくことができた。

7 研究の課題

- (1) ノートに書く活動と1人1台端末を使う場面のバランスや共有したり考えを深めたりする際のタブレットと板書のバランスのとれた使い分け、ベストミックスへ向けた研究が必要である。
- (2) 学習のねらいに則して、より効果的に1人1台端末やICT機器の活用を工夫していく必要がある。

(記入者 北浦 純子)